



Nagkaisa News

No.12

3年ぶり開催！フィリピンナガイサ クリスマス会



2022年12月17日、浜松市福祉交流会館においてクリスマス会を開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大がようやく少しずつ落ち着き、3年ぶりの開催となりました。参加者はフィリピンナガイサ賛助会員であるハロハロ教室・バヤニハン教室の生徒とその保護者が中心でしたが、教室ボランティアさん、賛助企業さんも参加してくれました。久しぶりに大勢が一堂に会し、対面での楽しい時間を過ごしました。

2022年度 事業報告

NPO法人フィリピンナガイサの定款には、「浜松市及びその近郊に暮らす在住フィリピン人に対して生活支援・社会教育活動を通じて日本人住民との相互理解を深めることを促し、自立・共生社会実現を目指すことを目的とする」とあります。近年ではフィリピン人に限らず、南米やアジア諸国からの外国人住民もフィリピンナガイサの活動や教室に参加しており、学習者の多国籍化が進んでいます。私たちは、外国人コミュニティが地域に埋没してしまわないこと、そのために相談窓口や居場所であり続けるとともに、より良い出口を目指したハブとしての機能を果たすことを常に意識して活動しています。

2022年度の活動は、下図のとおりです。



2023年度 活動スタート



バヤニハン中区クラス (文化庁委託)

毎週土曜日午後に南部協働センターで開催している教室です。フィリピンの人たちが集まって勉強する場所が浜松市にはあるとの話を聞いて、近隣市からも参加者が集まり昨年度は53名の生徒が集まりました。「ひらがな・カタカナ」、「会話」、「漢字」、「検定試験対策」、「受験対策」など、様々な学習ニーズに対応できるよう、生徒のニーズごとにグループ分けをし、それぞれのグループを担当するサポーターさんと勉強しています。サポーターには地域の日本人だけではなく、かつてナガイサの教室で学んだフィリピン人の青年たちもいます。彼らは「ハロハロ教室」や「駅南教室」でも活躍しています。このことは、ナガイサが長い間南部協働センターに根付き活動を続けてきた何よりうれしい成果といえるでしょう。この教室は、日本語の勉強をするだけではなく、学習者の目的や目標を汲み取り、それを目指してどのように学習していったらよいかをアドバイスできる場であることも目指しています。また、進路相談や教育相談なども随時承っています。



バヤニハン浜北区クラス (文化庁委託)

今年度も浜名協働センターにて「浜北区クラス」を開催しました。学習者の多くは、本取組に先立って実施された浜松市体制づくり推進事業からの継続参加者であったこと、また住まいが中区でも浜北区でもないフィリピン人の学習者で車を所有している方が、駐車場が広い浜北クラスを選択するということが見られました。さらに、インドネシアの技能実習生という国も在留資格もこれまでとは違った属性の学習者を含んだことも新規点でした。ここに、今年度も静岡文化芸術大学より日本語教員養成課程の実習生を1名受け入れ、チームティーチングの形式で授業を展開しました。

また、このクラスではポートフォリオを使って、学習の記録を「見える化」しています。これにより、学習者は自身の学びの履歴が残りましたし、クラスではこのポートフォリオを間に据えて参加者同士がおしゃべりする姿が、自然にありました。このようなグループダイナミクスが、学習の継続という形で動機付けに変化したことも浜北クラスの有意義な点でした。なお、託児を設置し、NPO 法人ころころネット様にもご協力いただきましたが、これによってお母さんたちが安心して勉強できる環境を整えました。



ハロハロ教室

(浜松国際交流協会委託『地域日本語学習支援事業』フィリピン人児童・生徒を対象とした就学支援教室開催)

新型コロナウイルス感染拡大の影響がまだ残る中ではありましたが、参加者人数は感染拡大前より増加となりました。入国制限の緩和に伴い子どもの呼び寄せが増加したこと、また日本生まれ日本育ちのフィリピン人児童の参加が増えたことが理由として挙げられます。

ハロハロ教室には、フィリピン人バイリンガル講師が日本の学校で必要な知識や日本語を教える「初期適応クラス」、そして主に日本人サポーターが宿題のサポートをする「寄り添いクラス」の二つがあります。浜松市内に点在しているフィリピン人児童生徒が、仲間で楽しく集まれる場所として重要であるとともに、保護者からの相談場所や子どもたちの母語保持の場としても大きな意味を持っています。



面接作文クラス

(浜松国際交流協会助成事業『定住フィリピン人青年のための進路支援事業』)

日本で高校進学を目指す定住フィリピン人青年が、受験に必要な面接・作文を勉強する教室です。22年度は11名の生徒が無事高校進学を果たしました。受験直前には本番さながらの模擬面接試験や模擬作文試験を実施し、合格後には提出書類のサポートも行いました。

日本での進学や就職について知識の乏しいフィリピン親子が共に進路について考える機会を提供するため、進学相談も実施しました。進路相談会には25名の参加がありました。



駅南教室

(浜松国際交流協会『浜松市定住外国人子供の就学促進事業』)

来日直後で日本の小中学校に就学することに不安を感じている児童生徒、また義務教育学齢超過年齢で来日し高校進学を目指す生徒を教育の場につなげることを目的とした教室です。FNは実施団体として関わっています。

就学に向けて日本語を勉強するだけでなく、英語や数学も学んでいます。これは、入学後に自信が持てる科目を一つでも増やせるようにという理由です。また、総合学習として日本の社会を知るための様々な体験学習も行っています。例えば、申込書の記入の仕方を学び実際に交通 IC カードや図書カードを作る、自分たちで行き方を調べて浜松国際交流協会 HICE へ出掛ける、浜松市防災学習センターはま防～家で防災について考える、企業の博物館で地域の産業について学ぶ、などです。保護者を交えた進学相談や、学校側や教育委員会との連携を密に図るといったことも非常に重要です。保護者からは、「呼び寄せについて相談できる場所があっただけよかった。」「就学や進学について相談できる場所は他にないので、安心した。」「学校と保護者の間に入って説明してくれたおかげで就学がスムーズにいったよかった」などの声が届いています。



職業訓練

(離転職者委託訓練 (定住外国人向け) 販売サービス科②)

2022年10月7日～2023年1月6日まで「離転職者訓練(定住外国人向け)販売サービス科」を実施しました。訓練では、仕事で使用する日本語を学ぶ「ビジネス日本語」と Excel と Word を学ぶ「IT活用」、「就職支援」を実施しました。

訓練目標の一つとして、検定試験の合格を目指しており、日本語能力を測る「実践日本語コミュニケーション検定 bridge」の A 評価取得と「Excel 表計算処理技能認定試験 3 級」の合格を目指しています。22 年度訓練生の Excel 試験合格率は 83% となり高い合格率となりました。就職支援では、定住外国人支援経験のあるキャリアコンサルタントが訓練生と一緒に仕事探しをサポートしています。訓練生の「自分の希望する仕事に就きたい!」という気持ちを大切にしています。

22 年度は、フィリピンナガイサの取組が厚生労働省の「外国人雇用対策の最近の取り組みについて」の中で就職支援事例として取り上げられました。次のリンクからご覧いただけます。

<https://www.mhlw.go.jp/content/11601000/001079219.pdf>

次回の訓練は 2023 年 7 月 5 日からスタートします。定住外国人の皆さんの就職希望を叶えられる訓練を目指しています。



人材育成講座（文化庁委託「日本語教育に関わる人材の養成・研修の実施」）

全8回のシリーズ講座に総勢50名が参加しました。「地域日本語教育」と「シビックプライドの考え方」の親和性について考えたり、地域日本語教育が目指す人物像の自己理解と職業理解をテーマにしたりしたことは、これまでにない新しい内容でした。さらに、最後の2回は有田玲子さん（東京日本語ネット代表）と協力し、「地域日本語教室はコミュニティの基盤づくり」という標語を掲げて、「ラポール」について学びを深めました。日本語教員の養成課程で、「ラポール」という語彙は出てくるのですが、教室活動においては、具体的にどんなことが「ラポール」にあたるのでしょうか。これを考えるために、当法人の日本語教室活動を動画に収め、それを受講者に共有しながら「指導の意図」を見える化し、考察しました。日本語教師は対人援助職でもあることから、「ラポール」への理解は欠かせません。ところで、有田先生との連携は2020年度より、実に3期目を迎えました。おかげさまをもちまして、全国からリピート参加者も大変多くいらっしゃいます。年を追うごとに、空白地域や他県・他市の各地で、「地域の日本語教室を立ち上げたい」と考えている人のご参加も目立つようになりましたが、今年もある参加者から「文化庁事業へ応募した」というご報告が寄せられました。こうして、この取組は全国のパイロット的な役目を担う事業に成長しています。



国際交流活動

夏休み中の8月28日、浜松市ギャラリーモールソラモにて、『多文化フェスタはままつ2022』が開催されました。浜松に住む外国の方々が、特設ステージで自国のダンスや音楽、文化パフォーマンスを披露したり、料理を販売したり。浜松駅前のオープンエリアとあって会場には多くの市民が集まりました。フィリピンナガイサからは、青年たちがバンブーダンスとヒップホップダンスで参加。その熱気あふれるダンスに会場からは大きな声援が飛びました。

2023年2月12日、に第二回フィリピン語スピーチコンテストを「はままつグローバルフェア」内で実施しました。このスピーチコンテストの特徴は、日本人のコンテストとフィリピン人のフィリピン語サポーターが一緒になり、スピーチを完成させる点です。オンライン上で両者が練習する機会を設定し、話し合いながらスピーチ内容を仕上げていきます。今回は全国から大学生、自治体職員、日本語教育関係者など7名の参加者が集まりました。コンテスト当日は会場とオンライン（なんとフィリピン留学先から参加のコンテストも！）をつなぎ、多くの聴衆を



前に堂々とスピーチすることができました。それを見守るペアのサポーターもとてもうれしそう。参加者の皆さんの熱量は私たちの予想以上で当日は大変盛り上がりました。当日の様子はホームページのブログに載っていますので是非ご覧ください。



対外活動報告

近年、フィリピンナガイサには外部団体より登壇などの依頼が多く寄せられるようになってきました。任意団体としての設立から実に30年。この間に、フィリピンナガイサには「学び合う」という風土が醸成され、参加者がパッチワークのように増えていきました。登壇依頼は、「学習者と支援者が同じ立場に立って、目の前にある課題解決をしている」という点を、フィリピンナガイサの良さだと評価していただいているものとうれしく思います。

2022年6月23日

浜松市立上島小学校総合学習 やさしい日本語でコミュニケーション

2022年7月12日

浜松市立中部小学校総合学習 やさしい日本語でコミュニケーション

2022年8月1日

『多様性を生かしたまちづくり 2022 浜松』主催：浜松市 パネリスト登壇 代表理事 松本

2022年8月24日

『第11回東アジア包摂都市ネットワーク』主催：大阪公立大学都市科学防災研究センター
ワークショップにて事例発表 代表理事 松本

2022年10月26日

静岡県立大学一般教養課程講座にて『静岡の市民活動』講義 理事 半場

2022年11月19日

「生活者としての外国人」に対する日本語教師

【初任】研修

主催：インターカルト日本語学校日本語教員養成
研究所 講師登壇 理事 半場

2023年3月11日

東海日本語ネットワーク「日本語ボランティア研修・
お話を聞く会」登壇 理事 半場



静岡県立大学より、理事 半場に「地域みらいづくりフェロー」認定（2022年6月）

受賞報告

この度、NPO 法人フィリピンナガイサは、一般財団法人企業経営研究所 より 国際交流功労賞を受賞いたしました。

“貴法人は 県内在住のフィリピン住民に対する日本語教育 学習支援 進路支援等の幅広い活動を 行政や諸団体との協同により展開され 地域における相互理解の深化と多文化共生社会の実現に向け多大な貢献をされました ここにこれまでのご功績を称えるとともに今後の更なるご活躍を期待し国際交流功労賞を贈ります”

この賞をいただくのは、2014 年度に引き続き二回目。今後も一層、在住フィリピン人コミュニティの支援と、多文化共生社会の実現に向けて邁進してまいります。



<会員募集中>

NPO 法人フィリピンナガイサはたくさんの方々にご支援いただき、在住フィリピン人をはじめとする外国人生活者の方々への支援活動をおこなっています。引き続き、安定した活動・運営を続けていくために、ご賛同・ご支援いただける団体・個人の会員を募集しています。

<年会費>

賛助会員 大人: 4,000 円
 賛助会員 子ども: 1,000 円
 賛助会員団体 一口: 10,000 円

<お問い合わせ>

Tel : 080-4308-8380(フィリピン語 中村)
 090-9175-8380(日本語 松本)
 Mail : filipinonagkaisa@yahoo.co.jp
 ホームページ:[http:// filipinonagkaisa.org/](http://filipinonagkaisa.org/)



編集 後記

令和 5 年度から、事業のイメージ図を左図の 4 本柱から右図のドーナツ型に改めました。従来の事業を「移住者への教育支援部門」、「地域コミュニティ創造部門」、「地域人材育成部門」の 3 つの部門に分け、個々の教室や活動の目的・専門性を可視化できるようしました。

これまでのフィリピンナガイサの良さは残しつつ、移住者の皆さんへの教育支援を中心とした支援をより充実させていけるように今後も精進してまいります。

2023 年度フィリピンナガイサ スタッフ

代表理事： 中村 グレイス
 松本 義一

理事： 鈴木 エバ
 平原 エテル
 山浦 優子
 吉田 佐織

スタッフ： アバス マリ
 上村 美貴子
 坂口 和代
 高柳 史江
 只尾 ジェニファー
 田中 寛美
 デボルバ カタリン リト
 パドゥア キンタロウ
 原田 マリアテレサ ディゾン
 古橋 好江

